

手作りほうきの里—山形県庄内町槇島



槇島ほうきは、山形県庄内町槇島(まぎしま)集落に代々伝わる民芸品です。歴史は遡ること200年、一度作ると数十年使用することもできるという耐久性や、ほうききびの程よい硬さが「農作業後の蔵掃除」にぴったりで、長年、農家の家や稲蔵で使われてきました。代々受け継いだ伝統を数少ない槇島の農家が今も守り続けています。



榎島ほうきの特徴



材料は手作り

榎島集落で200年にわたり守り伝えてきた種を蒔いての定植、刈取り、脱穀、糸の染色、頭巾手縫いなど材料を手作りして榎島ほうきは製作されています。

丈夫で長持ち

柄から穂先まで1本のほうききびを束ねて製作しているため丈夫で長持ちで、農家では座敷掃きから始まり、最後は蔵掃除用と30年も使い続けられるとされています。

軽くて使いやすい

榎島ほうきは程よい硬さと軽くて使いやすいその掃き心地が特徴です。



【86年間愛され続けているほうき】

カラフルなデザイン

榎島ほうきは黒糸一色で編み上げられる実直なデザインでしたが、映画「おくりびと」に映し出される庄内の美しい景色に憧れて移住してきた庄内町観光協会の中原浩子観光専門員（当時）と伝統の榎島ほうきを守り続けてきた地元農家との出会いにより、カラフルなデザインに生まれ変わりました。そのカラフルな糸はすべて作り手が染めています。

受け継がれて二〇〇年

人と人をつなぐ魔法のほうき



まぎしま
檜島
 ほうき

〔山形県庄内町〕

山形県庄内町檜島集落。二百年間、農家の生活の片隅にありつづける、魔法のほうきです。

檜島ほうき応援隊 プロジェクト
**BROOM OF MAGISHIMA
 PROJECT**

